

政務活動報告書

令和7年2月17日

〔会派名： 公明党 〕

代表者氏名	富田 真由美	記録者氏名	富田 真由美
視察者氏名	富田 真由美		
活動日	令和7年2月7日（金）～2月9日（日）		
活動先	アメニティーフォーラム28		
活動目的	障害福祉についての課題、取組みを学ぶため		

概要

2月7日（金）

- ・共生社会フォーラム【基調講演】野澤和弘氏 他
- ・令和・昭和のオールブリュット対談（2つの視点）
 1. 令和の社会に異彩を放て～そのカギとなるビジネスモデルと作りたい社会
 2. 昭和から続く、オールブリュットの歩み～作品の横にある暮らしと家族
- ・誰もが安心できる「福祉」を目指して～この業界をアップデートするための取組みと歩み
- ・田島良昭氏の福祉思想を～資料展と共に

2月8日（土）

- ・人口減少社会と日本社会のこれから【講演】大島一博氏 前厚生労働省事務次官
- ・海を越えてきてくれた彼らとともに、現場を作る
- ～外国人人材受け入れにあたっての想い、工夫、苦勞、現実を率直に議論～
- ・精神障害のある人と地域で暮らす～精神科医療のカタチを探る～
- ・障害と栄養・食の未来を、いま、始める
- ・人口減少時代に一人を大事にする街づくり～キーワードは重層的支援とウェルビーイング～

2月9日（日）

- ・「生まれたことが祝福される国創りを」子どもを支える様々な取組み
- ・障害福祉のこれから
- ・地域生活支援拠点等を中心とした障害者の地域生活の実現のために
- ～古くて、新しいテーマ地域と入所施設の関係を問う～

人口減少、少子化の課題にこれまでの福祉の仕組みを見直さなければならない時期がきているのではないかと。これまで福祉に関する27本の法律がこのアメニティーフォーラムの意見を参考に作られてきたことは本当にすごいと思う。総合支援法の改正により新しいサービスも進むのではないかと。

- ・説明資料は別途添付



アメニティーフォーラム28

2月7日(金)

オープニングトーク

12:00ころ～12:40ころ

おめでとうございます！ 第26回・糸賀一雄記念賞！

第10回・糸賀一雄記念未来賞！

バンジメディア（知的障害者が発信する放送局）

堀口旬一朗（清心会・アンバサダー）

紹介者：尾上浩二（DPI日本会議副議長）

岡部浩之（清心会理事長）

聞き手 白根有子（東京演劇集団風俳優）

（糸賀一雄記念財団・共生フォーラムとしても同時に開催されます。）

12:40～13:50

共生社会フォーラム2024全体フォーラム（概要説明・野澤さん講演含む）

野澤和弘（植草学園大学副学長）

宇佐美幸恵（株式会社PBコミュニケーションズ 代表取締役）

奥 博（しがきん福祉基金監事）

辻 哲夫（事業実施責任者）他

進行 本後健（厚生労働省障害保健部企画課長）

（糸賀一雄記念財団・共生フォーラムとしても同時に開催されます。）

14:00～15:10

令和・昭和のアールブリュット対談（2つの視点）

（1）令和の社会に異彩を放て～そのカギとなるビジネスモデルと作りたい社会～

（2）昭和から続く、アールブリュットの歩み～作品の横にある暮らしと家族～

松田文登（ハラルボニー代表取締役CO-CEO）

大西暢夫（写真家・映画監督）

進行：嘉田由紀子（参議院議員、前滋賀県知事）

15:10～16:00

誰もが安心できる「福祉」を目指して

～この業界をアップデートするための取り組みと歩み～

水流源彦（全国地域生活支援ネットワーク理事長）

村木厚子（全国社会福祉協議会会長）

進行：田島光浩（全国地域定着支援協議会会長）

16:10～17:10

「田島良昭の福祉の思想を～資料展と共に～」

田島光浩（南高愛隣会理事長）

大島一博（前厚生労働省事務次官）

進行 平谷尚大（脳損傷友の会高知青い空相談支援専門員）

17:15～18:00

我が国の障害者福祉が目指すものと「アメニティーフォーラム」について

古川 康（衆議院議員・国土交通副大臣）

聞き手：丹羽彩文（全国地域生活支援ネットワーク事務局長）

18:30～20:15 大懇親会（定員250名まで）

20:30～21:40

公演！ 瑞宝太鼓 【写真】脇に太鼓を抱え、自信に満ちた笑顔でバチを振り上げる3人の奏者

22:00～23:30

A分科会

厚生労働省の若手官僚のセッションに聞く、先輩たちが作った27本の法律を

「なぜ、この道を選んだのか。～そして、どんな社会を創りたいか～」

羽野嘉朗（厚生労働省 障害福祉部 地域生活・発達障害支援室長）

米澤祐介（厚生労働省 健康・生活衛生局総務課課長補佐）

國信綾希（厚生労働省 人材開発統括官付人材開発政策担当参事官室室長補佐）

進行：御代田太一（東京演劇集団風研究所理事）／片岡保憲（日本高次脳機能障害友の会理事長）

B分科会

あの頃、僕たちが夢みた社会、紡いだ実践～障害者自立支援法、前夜～

横井寿之（かたるべの杜副理事長）

大原裕介（ゆうゆう理事長）

田中正博（元アメニティーフォーラム実行委員長）

曾根直樹（元厚生労働省障害福祉専門官）

（定員30名・小さい部屋で行います）

2月8日(土)

8:30～9:30

人口減少社会と日本社会のこれから

【講演】大島一博（前厚生労働省事務次官）

A分科会

09:30~10:15

海を越えてきてくれた彼らとともに、現場を作る。
～外国人人材受け入れにあたっての想い、工夫、苦労、現実を率直に議論します～
吉本賢次（（株）ITA社長）
地村貴士（自立生活センター「ばあとなあ」代表）
進行：水流源彦（全国地域生活支援ネットワーク理事長）

10:15~11:45

精神障害のある人と地域で暮らす
～精神科医療のカタチを探る～
滝波宏文（参議院議員・農林水産副大臣）
小林秀幸（厚生労働省精神・障害保健課長）
桐原尚之（全国「精神病」者集団）
彼谷哲志（特定非営利活動法人あすなろ）
櫻木章司（日本精神科病院協会常務理事）
田村綾子（日本精神保健福祉士協会会長・聖学院大学副学長）
進行：岡部正文（日本相談支援専門員協会理事）

11:45~13:00

障害と栄養・食の未来を、いま、始める
☑ 誰ひとり取り残さない栄養と食
中村丁次（公益社団法人日本栄養士学会代表理事会長、一般社団法人日本栄養実践化学戦略機構代表理事、一般社団法人障害者の食と文化活動推進研究会代表理事）
☑ 服部幸應先生、ありがとう
～未来の礎を築いた足跡を振り返る～

B分科会

09:45~11:00

A型の立て続けの撤退、同じことを起こさないために必要なこと。
本後健（厚生労働省障害保健福祉部企画課長）
村木太郎（就労継続支援A型事業所全国協議会理事）
白井誠一郎（DPI日本会議事務局次長）
進行：吉野智（PwCコンサルティング合同会社）
11:00~12:15
企業からの転職先に「福祉現場」が選ばれる理由
～シニア層への”スローキャリア”のすすめ～
北田香里（（株）ワコール人事部）
大澤宏（元・三井物産、現・社会福祉法人いたるセンター）
蒲原基道（友愛十字会理事長）
進行：野澤和弘（植草学園大学副学長）
大原裕介（北海道医療福祉大学理事）

12:15~13:00

明るい報告！「厚生労働省が地方自治体に通知した出来事」
～サービスを利用しながらアメリカで学んでいる人のことを～
八木郷太（CILいろは）ZOOMによる参加
佐藤聡（DPI日本会議事務局次長）
平下耕三（自立生活夢宙センター代表）
聞き手：宮路拓馬（衆議院議員・外務副大臣）

13:00~14:00

昼食休憩

14:00~15:20

アメニティーフォーラムと27本の法律
衛藤晟一（自民党障害児者問題調査会会長）
高木美智代（公明党顧問）
山本博司（公明党障害福祉委員会会長）
田畑裕明（元厚生労働委員長）
野村知司（厚生労働省障害保健福祉部長）
黒瀬敏文（内閣府政策統括官（共生・共助担当））
指定討論者
佐々木桃子（全国手をつなぐ育成会連合会会長）
田中伸明（日本視覚障害者団体連合評議員・弁護士）
尾上浩二（DPI日本会議副議長）
進行：岩上洋一（全国地域で暮らそうネットワーク代表）

15:30~16:45

人口減少時代に一人を大事にする街づくり
～キーワードは重層的支援とウェルビーイング～
伊原和人（厚生労働省事務次官）
堀江和博（滋賀県・日野町長）
富田能成（埼玉県・横瀬町長）
進行：岡部浩之（全国地域生活支援ネットワーク副理事長）

16:45~17:15

「はてしない物語！～それでも、のぞみの園は必要ですか？～」
田中正博（国立のぞみの園理事長）

聞き手：長田和也（ハケ岳名水会理事長）

20:00～22:00

東京演劇集団風「ジャンヌ・ダルク～ジャンヌと炎～」

22:15～24:00

一步踏み込む！バリアフリー演劇論。

～見えない人にも手話通訳が、聞こえない人にも音声ガイドが必要なわけ～

「文化芸術によるまちづくり」

杉野可愛（千葉県教育委員会次長）

大沼美紀（東松山市バリアフリー演劇実行委員会副実行委員長）

中曽根鈴音（自立生活センターSTEPえどかわ）、

大河内直之（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

太下義之（同志社大学教授）

進行 尾上浩二（DPI日本会議副議長）

2月9日（日）

08:30～10:00

「生まれたことが祝福される国創りを」

～子どもを支える様々な取り組みを紹介します～

源河真規子（こども家庭庁・支援局担当審議官）

宮原里美（スプリングひびき理事長）

林晃弘（フラット理事長）

進行：又村あおい（全国手をつなぐ育成会連合会常務理事）

10:00～11:00

「障害福祉のこれから」

野村知司（厚生労働省障害保健福祉部長）

11:00～12:40

地域生活支援拠点等を中心とした障害者の地域生活の実現のために

～古くて、新しいテーマ 地域と入所施設の関係性を問う～

山口麻衣子（全国地域で暮らそうネットワーク）

曾根直樹（日本社会事業大学専門職大学院教授）

今村登（自立生活センターSTEPえどかわ理事長）

伊藤洋平（厚生労働省障害福祉課長）

進行：岡部浩之（全国地域生活支援ネットワーク副理事長）

12:40～12:50

「グランドフィナーレ」

※プログラムは当日変更する場合がございますので、予めご承知おきください。

プログラム中面

バリアフリー映画祭 会場 ホテル棟 2F 「比叡」

バリアフリー映画は1,000円/日でご覧いただけます（当日受付）

アメニティフォーラムでのバリアフリー映画祭をきっかけに、日本でのバリアフリー映画への取り組みが始まったと言っても過言ではありません。今回はアメニティをこれまで一緒に作ってきた関係者からの提案を受け、「江里は みんなと生きていく」（寺田靖範監督）、「大空へはばたこう～自立への挑戦～」（小川道幸監督）を上映します。この2作品はともに、障害者が地域の中で逞しく生きていく姿を描いたドキュメンタリー作品です。

また、「夜明けのすべて」（三宅唱監督）「偶然と想像」（濱口竜介監督）の話題作2作品を選定しました。優れた劇映画作品を、バリアフリー版でお楽しみください。バリアフリー映画の普及が、新しい映画作品の製作を可能にしています。皆さま、本年も映画上映会場へぜひ足をお運びください。

上映スケジュール

2月7日（金）

13:00開場

13:55（上映時間105分）大空へはばたこう～自立への挑戦

13:20より小川道幸さん、関係者による映画トークあり

16:30（上映時間121分）偶然と想像

2月8日（土）

10:00開場

10:30（上映時間119分）夜明けのすべて

13:30より寺田靖範監督、関係者による映画トークあり

13:59（上映時間91分）江里は みんなと生きていく

16:00（上映時間105分）大空へはばたこう～自立への挑戦～

18:30（上映時間121分）偶然と想像

2月9日（日）

08:45開場

9:30（上映時間91分）江里は みんなと生きていく

11:20（上映時間119分）夜明けのすべて

大空へはばたこう～自立への挑戦～ 2月7日・8日上映

監督：小川道幸 制作・著作：パンジーメディア

2023年／105分

同じ知的障害のある仲間にも、入所施設から出て自由に生きてほしい——知的障害者が自立を実現するためにはどうすればいいのか？障害を持つ当事者自身が取材を行い、生のメッセージと想いを届ける。「ぼくたちは、一人の人間として地域で自分らしく生きる」

【写真】原っぱで黒いTシャツ、ジーンズの男性が横たわって空を見上げる

江里は みんなと 生きていく 2月8日・9日上映

監督：寺田靖範

製作：パーソナル・アシスタンスとも 制作：おもしろ

2024年／91分

西田江里さんはオシャレと絵を描くのが大好きな22歳。重い障害を持つ

江里さんは24時間365日の介助が必要で、家族だけで命を守ることができない。日常を支えているのはケアスタッフ。そんな江里さんにカメラが密着。長い時間を共有するなかで、単にケアをする・されるといった立場をこえて、ともに生きる関係性を育んでいく江里さんと仲間たちの物語。

【写真】西田江里さんを6人の男女が笑顔で取り囲む

夜明けのすべて 2月8日・9日上映

監督：三宅 唱 原作：瀬尾まいこ 出演：松村北斗・上白石萌音

企画・制作：ホリプロ 制作：ザフル

2024年／119分

思うようにいかない毎日。それでも私たちは救いあえる。——ささやかな、でも確かなつながりが照らす、かえがえのない物語。瀬尾まいこの原作に三宅唱監督がオリジナルの要素を加え、主人公の二人が交流し少しずつお互いの殻を溶かし合っていく姿を、彼らの見つめる日常の美しさや季節の移ろいとともに捉えた傑作。©瀬尾まいこ・『夜明けのすべて』

製作委員会

【写真】松村北斗と上白石萌音が並んで立つ

偶然と想像 2月7日・8日上映

監督・脚本：濱口竜介

製作：NEOPA fictive

2021年／121分

出演：古川琴音・中島歩・玄理・渋谷清彦・森郁月・甲斐翔真・占部房子・河井青葉

思うようにいかない毎日。それでも私たちは救いあえる。——ささやかな、でも確かなつながりが照らす、かえがえのない物語。瀬尾まいこの原作に三宅唱監督がオリジナルの要素を加え、主人公の二人が交流し少しずつお互いの殻を溶かし合っていく姿を、彼らの見つめる日常の美しさや季節の移ろいとともに捉えた傑作。

第1話『魔法（よりもっと不確か）』第2話『扉は開けたままで』『第3話 もう一度』『ドライブ・マイ・カー』がカンヌ映画祭・脚本賞など4冠、ベネチア国際映画祭では『スパイの妻』銀獅子賞（監督賞）、そして第71回ベルリン国際映画祭で銀熊賞（審査員グランプリ）受賞。「このスタイルをライフワークとしたい」と語る濱口竜介監督初となる「短編集」。

【写真】古川琴音と中島歩が向かい合って立つ

関連プログラム

法律を展示してみる 2月7日（金）～9日（日） 会場：コンベンションホール淡海内

「アメニティーフォーラムと27本の法律！」

この場所で議論を行い、国会での成立に至った法律は27本。これら全てについて、その成立経緯や議論の論点、そして、社会に与えたインパクトなどをご紹介します。法律を通じて、この国の障害福祉の歩みを読み解く企画です。皆さん、お楽しみください。

田島良昭資料展 2月7日（金）～9日（日） 会場：コンベンションホール淡海内

障害のある人が「ふつうの場所でふつうの暮らしを」できる社会の実現を求め時代を駆け抜けた故・田島良昭氏。解体を見据えた入所施設の設立、街中でのグループホームや一人暮らし、福祉的な就労から一般就労、愛する人と結ばれ子どもを産み育てる支援、犯罪を繰り返さざるを得ない人への支援。そのすべては障害分野から社会を変える、共生社会を目指す実践でした。本展では、希代の福祉活動家である田島良昭氏の生い立ちとその実践を写真と資料で振り返り、「だれもが暮らしやすい地域社会」の実現のために、私たちが何をなさねばならないのかを学び考えたいと思います。

※この田島良昭資料展は、社会福祉法人南高愛隣会のご協力を頂き開催します。

関連フォーラム

2月7日（金）16:10～17:10 コンベンションホール淡海7にて

田島良昭の福祉の思想を～資料展と共に～

田島光浩（南高愛隣会理事長） 大島一博（前厚生労働省事務次官） 進行：平谷尚大（脳損傷友の会高知青い空・相談支援専門員）

【写真】田島氏の著書「ふつうの場所でふつうの暮らしを」、田島氏のポートレート写真

大道芸人「風船太郎」によるパフォーマンス 2月8日（土）12:30～

コンベンションホール2フロアスペースにて2

風船太郎 プロフィール

岐阜県出身 1968年生まれ。国立静岡大学 工学部 機械工学科 卒業。2000年 大道芸人としてジャグリング・マジック等のパフォーマンスを行う。2005年 風船太郎に改名し、バルーンパフォーマンスを行う。現在、平日は保育園や幼稚園、週末は商業施設やイベント会場で独創的なバルーンパフォーマンスを展開する。年間300ステージ以上。

【ボランティア活動】

2011年10月3日～7日には、3月11日に発生した東日本大震災被災地の保育園・幼稚園で無償のバルーンショー実施。以降、毎年10月に5日間かけて被災地の保育園・幼稚園でバルーンショーを実施。震災発生後 義援金として獲得賞金を含めて合計300万円を寄付。2016年5月、カンボジア プノンペン孤児院にてバルーンショーを実施。

「風船太郎さんパフォーマンス」は有料参加の皆さんはどなたでもお楽しみいただけます。

【写真】風船でできた大きなハットをかぶった風船太郎氏

権藤説子プレゼンツ

誰もが楽しめるバリアフリー演劇鑑賞会「ジャンヌ・ダルク～ジャンヌと炎」

2月8日（土）20：00～22：00

東京演劇集団風

バリアフリー演劇

このバリアフリー演劇の試みは、2018年より始まりました。聴覚障害者向けに背景のスクリーン上に字幕を表示し舞台では、舞台手話通訳者が俳優と同化した動きで舞台表現を補う形をとります。また、視覚障害者向けには音声ガイドをオープンで会場に流し、物語の進行を創造的に補う方法で情報保障を行います。バリアフリー演劇の試みは始まったばかりです。演劇でいう「バリアフリー」という言葉には、何より私たちの感性を解き放つという意味が込められています皆さん、新しい風が運んでくる舞台をお楽しみください。（東京演劇集団風）

ストーリー

いま、ひとりの少女が声をあげた――

旅役者の一行が語る、伝説の少女ジャンヌ・ダルクの物語。時代は600年前のフランス。100年にも及ぶ戦争は、人々が一片のパンのために争い、殺しあう死と絶望の世界へと変えてしまいます。ただ祈り、奇跡を待ち望む人々のもとに現れたのは、読み書きもできないひとりの少女、ジャンヌでした。「私こそその奇跡です！」神の声を聞いたという彼女は、祖国のために戦い、人々を死と絶望から救います。しかし彼女を恐れた権力者たちは、彼女を「異端者」と宣告し、火あぶりの刑を命じました。「私の声が聞こえますかー」彼女の炎は、時代や場所を超えて、私たちの心に生き続けるのです。「すべての人は、小さくても、心に炎を灯している」と、作家が劇団に書き下ろした代表作を、みんなで一緒に楽しめるバリアフリー演劇として上演します。

*バリアフリー演劇は2,000円でご鑑賞いただけます。（当日受付）

【写真】司教が肩に手を置き、ジャンヌが片膝立ちで座る

公演！瑞宝太鼓 2月7日（金）20：30～21：40

演奏中の凛々しく激しい彼らの姿はもちろん、緊張感を解いて、人間味があふれ出す自由な彼らを知ったら、あなたも瑞宝太鼓の虜になること間違いなし！会場全体を揺るがす太鼓演奏と、飾らない彼らのあったかさに、思わず私たちの心も、勝手に踊りだす、瑞宝太鼓の魅力を余すことなくお伝えします。

*瑞宝太鼓公演は2,000円でご鑑賞いただけます。（当日受付）

【写真】ばちを大きく振り上げた奏者たち

障害と栄養・食の未来を、いま、始める 2月8日（土）11：45～13：00

「栄養・食の力によって誰ひとり取り残されことなく、健康で幸せな生活を営むことができる」未来

社会を描く上で、障害の視点は欠かせません。さらに栄養・食を文化芸術と同じ地平で捉えることで、目指すゴール、未来の在り方はより豊かなものとなるでしょう。

「食べることは生きること、表現することは生きること。」2つが一体化したメッセージを、障害者の文化芸術活動において世界の注目を集める日本から発信する意味は大きいと考えます。